

英語教員に求められる英語力の検証

—英検準1級レベルの語彙力に焦点を当てて—

竹野 純一郎・藤城 孝輔・西野 友一郎・奥西 有理

岡山理科大学教育学部中等教育学科

1. はじめに

2002年、文部科学省は、経済・社会等のグローバル化に鑑みて、21世紀を生きる子どもたちには、国際的共通語である英語のコミュニケーション能力を身に付けることが不可欠であることから、『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想』をとりまとめた(文部科学省, 2002)。翌年の2003年には、その戦略構想を基にして『英語が使える日本人』の育成のための行動計画』(以下、「行動計画」という)が策定された(文部科学省, 2003)。「行動計画」では、入学者選抜の改善や小学校英会話活動の充実など英語科教育と深く関わりがある様々な具体策が示されており、2006年度には大学入試センター試験にリスニングテストが導入されるなど実施に移されていった。

「行動計画」で注目すべき点は、政策的な計画だけではなく、国民全体に求められる英語力として、「中学校・高等学校を卒業したら英語でコミュニケーションできる」という目標が掲げられ、以下のような具体的な達成目標が提示されたことである。

- 中学校卒業段階: 挨拶や応対、身近な暮らしに関わる話題などについて平易なコミュニケーションができる(卒業者の平均が実用英語技能検定(英検)3級程度)
- 高等学校卒業段階: 日常的な話題について通常のコミュニケーションができる(卒業者の平均が英検準2級~2級程度)

また、英語教員の指導力向上に関しても具体的な英語力に関する目標(値)が掲げられた。

- 概ね全ての英語教員が、英語を使用する活動を積み重ねながらコミュニケーション能力の育成を図る授業を行うことのできる英語力(英検準1級、TOEFL550点、TOEIC730点程度以上)及び教授力を備える

2011年には、4月から小学校を皮切りに学習指導要領(文部科学省, 2008a; 2008b; 2009)が運用され、小学校で外国語活動の導入、中学校では授業時数の3割増加、高等学校では英語による授業の実施などが進められる中、「国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策」が公表された(文部科学省, 2011)。その中で、生徒に求められる英語力については、「行動計画」で示した目安を継続するとあり、公立学校の中学校3年生で英検3級程度以上の英語力を持つ生徒は全体の約32%、高等学校3年生で準2級程度以上の英語力を持つ生徒は全体の約30%と少ないため、生徒に求められる英語力の達成状況を把握

し、検証していく必要性が確認された。英語教員に求められる英語力に関しても、「行動計画」で示された目安が継承されたが（TOEFL は TOEFL PBT550 点に相当する TOEFL iBT80 点に変更）、資格やスコアを取得している公立中学校教員は全体の約 24%、公立高等学校教員は全体の約 49%であり必ずしも十分でなく、外部試験を受験していない英語教員が中学校で約 4 割、高等学校で約 3 割存在することも懸念材料とされた。

文部科学省は 2013 年には、「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」の中で、新たな英語教育として、高等学校卒業段階の到達目標について CEFR B1~B2 程度（英検 2 級~準 1 級程度以上等）、小学校における外国語の教科化に伴う小・中・高等学校における英語教育の高度化、中学校でも授業を基本的に英語で行うなどの方向性を示し、教員の指導力・英語力を向上させることが急務であるとした。英語教員の指導力向上に関する具体的な英語力に関する目標値として、中・高等学校の全ての英語科教員について、英検準 1 級、TOEFL iBT80 点程度以上の英語力を確保することが課題とされた（文部科学省, 2013）。

2014 年、「グローバル化に対応した英語教育改革の 5 つの提言」の「改革 1. 国が示す教育目標・内容の改善」では、以下の記述が確認できる。

○高等学校卒業時に、生涯にわたり「聞く」「話す」「読む」「書く」の 4 技能を積極的に使えるようになる英語力を身に付けることを目指す。

あわせて、生徒の英語力を把握し、きめの細かな指導の改善・充実や生徒の学習意欲の向上につなげるため、従来から設定されている英語力の目標（中学校卒業段階：英検 3 級程度以上、高等学校卒業段階：英検準 2 級程度から 2 級程度以上を達成した中・高生の割合 50%）だけでなく、高等学校段階の生徒の特性・進路等に応じた英語力、例えば、高等学校卒業段階で、英検 2~準 1 級以上等を設定し、生徒の英語力の把握・分析・改善を行うことが必要（文部科学省, 2014）

また、文部科学省（2014）の「3 英語教育の在り方に関する有識者会議における審議の詳細」の中で、採用に関して、「養成段階における取組にあわせ、英語力の高い教員を採用するため、採用段階においても、英検準 1 級、TOEFL iBT スコア 80 程度以上の者を採用するような取組が期待される」との記述が見られる。

文部科学省は、毎年度、全国の都道府県・指定都市が実施している公立学校教員採用選考試験を対象として、その実施状況及び実施方法について調査を行っている。「教師の採用等の改善に係る取組事例」の「3 特別の選考」の調査結果（文部科学省, 2021; 2022）を基に、英検準 1 級によって一部試験免除・加点される都道府県・指定都市の一覧を作成した（表 1 参照）。

2021（括弧内は 2020）年度、英検準 1 級が特別の選考として用いられている都道府県は、中学校の一部試験免除が 6（6）県、加点が 22（24）県の合計 28（30）県、高等学校の一部試験免除が 1（2）県、加点が 21（22）県の合計 22（24）県であった。指定都市は、中学校の一部試験免除は 4（2）市、加点は 9（8）市、高等学校の一部試験免除が 2（1）市、加点は 6（3）市であった。2020 年度と 2021 年度の間で、宮城県では、英検 2 級だった基準が準 1 級に上がり、山形県と沖縄県では、英検準 1 級から 1 級へと基準が上がっている。

表 1 2020 年度～2021 年度 英検準 1 級によって一部試験免除・加点される都道府県・指定都市の一覧（文部科学省（2021, 2022）を基に作成）

	中学校		高等学校	
	一部試験 免除	加点	一部試験 免除	加点
県名 (2020 年度 を基に)	青森県 茨城県 神奈川県 岐阜県 岡山県*1 福岡県	岩手県 宮城県*2 山形県*3 福 島県 茨城県*2 埼玉県 富山県 福井県*2 静岡県 三重県 滋賀 県 京都府 大阪府 奈良県 鳥 取県 島根県*4 岡山県 広島県 愛媛県 高知県 佐賀県*2 長崎 県 鹿児島県 沖縄県*3	神奈川県 岡山県 *1 (2021 年度 は廃止)	岩手県 宮城県*2 山形県*3 茨城県 埼玉県 富山県 福井 県*2 静岡県 三重県 滋賀県 大阪府 奈良県 鳥取県 島根 県*4 岡山県 広島県 愛媛県 高知県 佐賀県*2 長崎県 鹿 児島県 沖縄県*3
2021 年 度新規		宮城県		宮城県 京都府
市名 (2020 年度 を基に)	京都市 北九州市	仙台市 相模原市 新潟市 浜松 市 大阪市 堺市 広島市 北九 州市(2021 年度は廃止)	京都市	新潟市 大阪市 広島市
2021 年 度新規	川崎市 福岡市	神戸市 福岡市	福岡市	仙台市 神戸市 福岡市

*1 高校の数学及び理科を対象。英検 1 級保持者の場合は中学・高校の英語の試験免除

*2 英検 2 級以上が対象

*3 2021 年度は英検 1 級のみ

*4 英語準 1 級を持つ場合、「選考に当たって考慮する」と記載

2021 年度「英語教育実施状況調査」の結果では、CEFR A1 レベル（英検 3 級）相当以上を達成している中学生の割合は 47.0%、CEFR A2 レベル（英検準 2 級）相当以上を取得している高校生の割合は 46.1%であった。目標の 50%には達していないものの、調査を開始した 2013 年度以降、経年で着実に改善が進んでいることが報告されている。CEFR B2 レベル（英検準 1 級）以上を取得している英語担当教師の割合は、2021 年の調査では中学校が 40.8%。高等学校が 74.9%であり、こちらも 2013 年度以降、中学校、高等学校ともに増加傾向が確認できる（文部科学省, 2022）。

「行動計画」で示された具体的な英語力の達成目標とその後の流れを概観したが、これからの英語教員には英検準 1 級程度以上の英語力が必須であることが確認できた。英語教員養成課程に在籍する学生は、英語の教授力に加えて、英語を使用する活動を積み重ねながらコミュニケーション能力の育成を図る授業を行う英語力を身に付けなければならない。外国語（英語）コアカリキュラム（文部科学省, 2019）は、「英語科の指導法」及び「英語科に関する専門的事項」で構成されており、それぞれの全体目標の記述から、英語の教授力は「英語科の指導法」で、CEFR B2 レベル（英検準 1 級）以上の英語運用能力は「英語科に関する専門的事項」で目指すものであるような印象を受ける。英語の教授力については、英語教

員養成課程で理論と実践を往還させ、著しい支障なく教科指導の職務を実践できるレベルに到達することができても、英語運用能力に関しては、教員養成課程の関連講座を受講するだけでは、英検準1級レベルに到達できない学生がいるのが実情である。

達成目標の目安としては、TOEFL や TOEIC、CEFR など挙げられているが、本稿では、英検が最も身近で具体的に感じられる基準であると考え、英検を用いて論を進める。

2. 研究の背景：なぜ英検準1級の語彙力に焦点を当てるのか

2-1 英検準1級のレベルについて

英語教員に求められる英語力については、前章で論じたとおり、英検準1級程度以上である。英検「各級の目安」については、同協会ウェブサイトで確認できる。英検準1級については、次のように記載されている (<https://www.eiken.or.jp/eiken/exam/about/>)。

習得目標：リーダー（品格）の英語

ライティング、スピーキングを含む4技能の総合力を測定

推奨目安：大学中級程度

出題目安：エッセイ形式の実践的な英作文の問題が出題されます。

「実際に使える英語力」の証明として高く評価されています。

また、「各級の審査領域」についても同ウェブサイトで確認できる。準1級の説明を次に例示する (<https://www.eiken.or.jp/eiken/exam/criteria/>)。

程度：社会生活で求められる英語を十分理解し、また使用することができる。

審査領域：

読む：社会性の高い分野の文章を理解することができる。

聞く：社会性の高い内容を理解することができる。

話す：社会性の高い話題についてやりとりすることができる。

書く：社会性の高い話題についてまとまりのある文章を書くことができる。

準1級では「社会性の高い」がキーワードであるが、英検1級では一步踏み込んで「社会性の高い幅広い」、英検2級では「社会性のある」がキーワードになっている。英語教員は、世の中で話題になっている事柄や時事問題を題材とする社会性の高い話題や内容について、聞き、話し、読み、そして書く英語力が求められる。

2-2 英検準1級の難しさの所在について

英検準1級の難しさの所在を明らかにすることを目的に、本学教育学部の「英語科教育法Ⅱ・Ⅳ」を受講している2年生15名、3年生13名を対象に簡単な調査を行った。調査時期は2022年10月上旬であり、受講者一人ひとりに直接質問をして回答を求める形式をとった。回答者の英語力は、英検準2級程度以上から英検準1級程度以下であるが、平均的には英検2級程度である。質問内容は、「英検準1級はなぜ難しいと思いますか？ 次の三つの項目で、英検準1級を難しくさせている要因だと考える順番に並べてください。A.

語彙レベル B. 文法・構文 C. 話題・内容」というものであった。それぞれの回答の1位には3点、2位には2点、3位には1点を与えた。この質問ではあえて、リスニングやスピーキング、ライティングについては言及していない。結果は次のようになった。

1位：語彙レベル (74点) 2位：文法・構文 (47点) 2位：話題・内容 (47点)

英検準1級を難しくさせている要因として、三つの項目の中では、「語彙レベル」が1位という結果であった。高い語彙レベルが、英検準1級を難しくさせている要因であると多くの学生が考えていることがわかる。実際、アンケート回答者28名中21名が、語彙レベルを1位に選んでいた。英検は、5級・4級・3級・準2級・2級・準1級・1級とグレードが上がるごとに扱う語彙数が増えていくので、語彙レベルが高いために英検準1級が難しいと考えられる。

次に、2位の「文法・構文」についてである。竹野(2022)は、新学習指導要領(文部科学省, 2017a; 2017b; 2018)で扱われている英語の特徴や決まりに関する事項の文構造及び文法事項を明確にするために、小学校、中学校、高等学校でどのような文構造や文法事項を学ぶのかについて、旧学習指導要領(文部科学省, 2008b; 2009)との比較対照を行う中で、学校教育で学習する文構造や文法事項が、英検のどの級で初めて出現するかを調査している。調査結果から、高等学校学習指導要領で扱われる文構造及び文法事項であっても、それらのほとんど全てが英検準2級までで扱われているということがわかる。このことから、英検準1級であるからといって文法・構文が難しくなっているのではなく、難しくなっているのは語彙であり、語法であるといえる。

最後に、同点で2位であった「話題・内容」について少し考察を加えたい。確かに、英検準1級の長文問題などは社会性の高い話題や内容が扱われている。しかし、それらが英語ではなく日本語で書かれていたらどうであろうか。英語教員を目指す学生であれば、理解できないレベルの話題や内容ではないと筆者らは考える。ましてや、リスニングパートが日本語で実施されると仮定すると、ほぼ間違えずに正答を選ぶことができるであろう。準1級の話題や内容が難しいと考えることは否定しないが、英語で書かれて理解しにくいために話題や内容が難しいと回答している可能性は否定できない。

以上の点から、「語彙レベル」「文法・構文」「話題・内容」に限定してではあるが、英検準1級を難しくしている要因は、高い語彙レベルであると考えられる。

2-3 英語教育改革の方向性と学習指導要領の改訂に伴う語彙数の増加

文部科学省(2013, 2014)では、今後の方向性として、高等学校卒業段階における目標として英検2～準1級が示された。文部科学省(2014)では、「このような目標を掲げる場合、学校教育だけで全ての生徒が達成する目標として設定するのは難しく、学校外で英語に触れる機会、様々な学習の場や支援を得ながら高等学校卒業段階における英語力の目標として設定することに留意すべきとの指摘があった」との記載も見受けられる。しかしながら、高等学校卒業段階で最終的に英検準1級程度の英語力に到達する生徒を増やしていく方向性であることは間違いない。

この度の学習指導要領改訂では、小学校での英語教科化、限られた項目であるものの文構

造及び文法事項の前倒し、そして、大幅な語彙数の増加が話題となった。中・高等学校で学ぶ総語彙数は 3000 語程度（中学校 1200 語，高等学校 1800 語）であったものが、小・中・高等学校を通じて学習する高校卒業レベルの総語彙数で 4000～5000 語程度（小学校 600～700 語，中学校 1600～1800 語，高等学校 1800～2500 語）へと大幅に増加した（文部科学省，2008b；2009；2017a；2017b；2018）。前節で英検準 1 級を難しくさせているのは語彙であると論じたが、英語教育改革の方向性と学習指導要領の改訂に伴う語彙数の増加を見ても、高い英語力を身に付けるには高い語彙レベルが必要であることがわかる。

3. 研究

3-1 研究目的

本研究では、英語教員に求められる英語力の具体的な目標値の一つである英検準 1 級のレベル、中でも語彙力に焦点を当て、どの程度のレベルでどのような分野の語彙を身に付ければよいか明らかにすることを目的とする。

3-2 データの作成

研究目的を検証するために、ベースになるデータ作成に必要な、英検準 1 級の語彙レベルと、比較対象として、英検 2 級の語彙レベルを調査するのに信頼性と妥当性がある材料を検討した。本研究では、旺文社（2021a）の『英検準 1 級 での順パス単』（以下、「パス単準 1 級」という）と旺文社（2021b）の『英検 2 級 での順パス単』（以下、「パス単 2 級」という）を採用した。これらの単語帳を選んだ理由は、最新 5 年間の英検出題データが分析され、よく出題される単語・熟語・表現が掲載されていること、単語帳の帯でも確認できるが、旺文社が英検書の売り上げが最も高いこと、また、歴史的な経緯もあり英検に関しては旺文社が信頼できることなどが挙げられる。

「パス単準 1 級」には、単語 1600 語、熟語 300 が掲載されており、「パス単 2 級」には、単語 1300 語、熟語 400 に加えて、会話表現 100、英作文表現 38 が掲載されている。熟語や会話表現、英作文表現は比較できないと考え、本研究では単語のみの比較とする。両単語帳に記載されている全ての単語（「パス単準 1 級」1600 語；「パス単 2 級」1300 語）をエクセルに打ち込みデータベースを作成した。

3-3 データの分析方法

どの程度のレベルでどのような分野の語彙を身に付ければよいかを示すという目的達成のため、英検準 1 級・英検 2 級の語彙レベルの難易度調査とカテゴリー調査を行う。

難易度調査では、オンラインで語彙のレベル（難易度）を解析することを目的として、水本篤氏によって開発された New Word Level Checker（以下、「NWLC」という）というウェブ・アプリケーションを用いる（<https://nwlc.pythonanywhere.com/>）。NWLC について、「名前や解析ツール開発のコンセプトは、染谷泰正氏が 2006 年に開発・公開した Word Level Checker (<http://someya-net.com/wlc/>) に由来する」とのことであり、詳しくは水本（2022）で確認できる。NWLC に掲載されている語彙リストは、新 JACET8000, JET2020, SVL12000, New General Service List, CEFR-J Wordlist, SEWK-J などであるが、本研究では、準 1 級レベルの語彙を調査するため見出し語数が多い SVL12000 と、小学校・中学

校・高等学校までの語彙と英検準 1 級・2 級の語彙レベルの関連を調査できる JET2020 を使用する。

NWLC では、基本形を見出し語とし、その派生形を含んで 1 語とカウントする *flemma* (family lemma) という語のカウント方法が採用されている。*study* という見出し語であれば、*study, studies, studied, studying* という語形は 1 単語としてカウントされる。*lemma* では、品詞を区別するため、動詞の *study* と名詞の *study* を区別し、それぞれ別の見出し語として扱われるが、*flemma* では、動詞の *study* と名詞の *study* を区別しない。

カテゴリー調査では、ジャムシステム株式会社による ANC 単語頻度準拠「英・和・他言語三ヶ国語辞典」(45 言語) を使用する。「英・和・他言語三ヶ国語辞典」は、米国の American National Corpus コンソーシアムによって公開された、1990 年以降あらゆる分野で用いられた 30 万語を収録する「Word Frequency List」を基に、独自に頻度順位やカテゴリー表が加えられ約 3 万語に精選されたデジタル辞書である。ダウンロードをして使用することも可能である (<https://www.jamsystem.com/ancdic/index.html>)。ジャムシステム社によれば、3 万語で全 30 万語の使用頻度の 97% を占めるという。

「英・和・他言語三ヶ国語辞典」にはカテゴリー表が付加されているが、カテゴリーに分類が可能な単語のみにカテゴリー番号が割り当てられているので、特にカテゴリーに入らなかった語が多く存在していることを記しておく。

4. 結果と考察

4-1 英検準 1 級の語彙の難易度：英検 2 級の語彙との比較において

ここでは、英検準 1 級の語彙の難易度を英検 2 級の語彙と比較検証したい。「パス単準 1 級」と「パス単 2 級」データを NWLC で難易度の解析を行った。NWLC で使用可能な、SVL12000 (Standard Vocabulary List 12000) を判定基準リストとした。SVL12000 では、アルクが蓄積してきた英文データと、多数の選考資料をもとに、ネイティブスピーカーの使用頻度をベースにしながら、日本人学習者にとって有用かつ重要な単語が選定された。『究極の英単語 SVL』シリーズとして、3000 語ずつ掲載され Vol. 1~Vol.4 まで書籍としても出版されている (アルク, 2006a; 2006b; 2006c; 2006d)。SVL12000 についての解説は、アルク出版社ウェブサイトで確認できる (<https://www.alc.co.jp/vocgram/article/svl/>)。

SVL12000 を基準にした、「パス単準 1 級」「パス単 2 級」の NWLC による難易度の解析結果を表 2 に示す。表の左側の列に、SVL12000 の単語のレベルが記されている。SVL12000 は、1000 語ずつ 12 のレベルに区分されている。NWLC では固有名詞や数字は既知語として分類され、PropNoun_Num と表示される (秦野, 2021)。下から 2 番目の NA (Not Available) は選択した語彙リストに入っておらず、学習者には難しすぎる語でそれほど注意を向ける必要が少ないと判断ができる (水本, 2022)。表の右側の難易度の目安は、アルク (2006a; 2006b; 2006c; 2006d) の目次に記されている表現である。Level 1 が「基本中の基本。はじめの 1000 語」、Level 12 が「語彙マスターになる 12000 語」とあるので、Level の数字が上がるごとに語彙レベルも上がっていくことがわかる。

左から 2 列目は「パス単準 1 級」に収録されている単語が、どの難易度にどれだけあるのかを示している。左から 3 列目は、英検 2 級「でる準パス単」に収録されている単語の検証結果である。なお、括弧内の数値は、それぞれの Level に該当する数値を総語数で割った

パーセントを表している。総語数が、「パス単準1級」1595語、「パス単2級」1285語となっているが、ハイフンを含む語 (e.g., long-term) や2語から成る語 (e.g., air conditioner) は2語としてカウントされるので分析対象から外し、語義違いや品詞違いであっても同じ語として認識される場合 (e.g., résumé, resume) は、リストに存在している語のみを残すようにしたからである。

表2 SVL12000を基準にした「パス単」の難易度解析結果

SVL 12000	パス単準1級	パス単2級	難易度の目安 (アルク, 2006a; 2006b; 2006c; 2006d による)
PropNoun _Num	22 (1.38)	4 (0.31)	
Level 1	14 (0.88)	60 (4.67)	基本中の基本。はじめの 1000 語
Level 2	72 (4.51)	355 (27.63)	日常的なことが言える 2000 語
Level 3	199 (12.48)	376 (29.26)	かなり話せる 3000 語
Level 4	329 (20.63)	248 (19.30)	英文読解の土台となる 4000 語
Level 5	250 (15.67)	112 (8.72)	大学受験～TOEIC 挑戦に必要な 5000 語
Level 6	188 (11.79)	58 (4.51)	TOEIC 高得点が射程距離内になる 6000 語
Level 7	171 (10.72)	20 (1.56)	英字新聞を読むのが楽になる 7000 語
Level 8	143 (8.97)	18 (1.40)	英文雑誌も怖くない 8000 語
Level 9	94 (5.89)	5 (0.39)	TOEIC900 点越えを可能にする 9000 語
Level 10	49 (3.07)	4 (0.31)	英文雑誌を余裕で楽しめる 10000 語
Level 11	21 (1.32)	0 (0.00)	視野がグーンと広げる 1万 1000 語
Level 12	7 (0.44)	0 (0.00)	語彙マスターになる 12000 語
NA	36 (2.26)	25 (1.95)	
	1595 (100.00)	1285 (100.00)	

注：括弧内の数値は%：語数／総語数

英検準1級について、一番多かったレベルは Level 4 で 329 語、割合でいうと 20.63% であった。次に多いのが、Level 5 で 250 語、割合でいうと 15.67% である。Level 3 から Level 7 まで、それぞれ該当する語数の割合が 10% を超えている。また、Level 8 も 8.97% となっており、割合として決して低い数字ではない。Level 10 で 95.99% を超え、Level 11 で 97.30%、Level 12 で 97.74% (PropNoun_Num; 22 語 (1.38) 含む) となる。

英検2級について、Level 3 が一番多く 376 語、割合でいうと 29.26% となっている。次に多いのが Level 2 で 355 語 (27.63)、次に Level 4 で 248 語 (19.3) であった。Level 5 に 112 語 (8.72)、Level 6 に 58 語 (4.51) までは該当する語数は少ないとはいえない。Level 7 で 95.95%、Level 8 で 97.35% に達する (PropNoun_Num; 4 語 (0.31) 含む)。Level 9, 10 で該当する語は一桁であり、Level 11, 12 には該当する語がない。

ここで、英検準1級の語彙の難易度について、英検2級の語彙との比較をしながら考察を加える。英検準1級の語彙は、Level 4 をピークに、Level 10 か Level 11 くらいまで広

範囲をカバーしている。一方、英検 2 級の語彙は、Level 3 をピークに Level 7 か Level 8 までである。何パーセントの語彙を知っていれば英文テキストを正しく読むことができるかという研究では、95%から 98%以上の語彙をカバーしておく必要があるとされている (Laufer, 1989; Hu & Nation, 2000)。この度の調査では単語帳を用いており、単語帳に含まれる単語の 95%以上を覚えていないと英検 2 級や英検準 1 級に合格できないわけではないが、一つの目安として 95%から 98%のカバー率も検証しておく。

英検準 1 級では、Level 10 でやっと 95%を超え、Level 12 でも 98%は超えていない。一方で、英検 2 級は Level 7 で 95%を超え、Level 10 で 98%に達する。英検 2 級では Level 9 で 5 語、Level 10 で 4 語であるので、概ね Level 8 までで十分なカバー率であると考えられる。

この調査結果から、英語教員を目指す学生に対する意識づけとしてできることを考えてみたい。もし英検 2 級程度の英語力を有しているのであれば、語彙に関しては、「パス単準 1 級」の Level 9 から Level 12 に該当している単語に NA に含まれる単語を加えた計 207 語のリストを徹底的に覚えればよい。語彙に自信がない場合は、Level 8 の 143 語、Level 7 の 171 語もあわせて学習すればよい。英語は単語帳ではなく、読書などを通して自然な文脈で学ぶ、語彙の付随的学習を支持する英語教員や学習者は多い。もちろんその考え方は否定されるものではないが、語彙学習の研究結果から、単語帳などで英単語を学ぶ、語彙の意図的学習の効果が見直されている (中田, 2019; 2022)。精選した語彙リストを提示し、あわせて英単語学習の研究成果を提供すれば学生の意識づけにつながると考える。

4-2 「パス単準 1 級」「パス単 2 級」で扱われる重複語について

この節では「パス単準 1 級」と「パス単 2 級」に現れる重複語について検証する。2 つの単語帳には重複している単語が見受けられる。データベースの重複している語を確認すると、総語数は 276 語であった。重複している単語について、SVL12000 を基準リストとして NWLC を用いて難易度を調べた。結果を表 3 に示す。

表 3 では、左の列は判定基準リスト SVL12000 の単語の難易度を Level 1 から Level 12 で表している。左から 2 番目の列は、準 1 級と 2 級の単語帳の中の重複語の数とその割合である。それぞれの Level に該当する数値を総語数で割ったパーセントを括弧内に記している。右の列には、それぞれの Level に該当する重複語を例示した。

Level 1 が 6 語で 2.17%、Level 2 が 28 語で 10.14%、前節の調査結果によると、英検 2 級の語彙が最も多く当てはまっていた Level 3 で 81 語 (29.35)、英検準 1 級の語彙で最も多く当てはまっていた Level 4 で 99 語 (35.87) の重複が確認できる。Level 5 が 31 語 (11.23)、Level 6 が 13 語 (4.71)、Level 7 と Level 8 がいずれも 7 語で 2.54%、Level 9 が 3 語 (1.09)、Level 10 から Level 12 まで該当する単語はなかった。NA は 1 語 (0.36) という結果であった。SVL12000 を基準リストとした場合、Level 9 で 3 語、Level 10 以上の重複語は NA の 1 語以外ないが、表 3 からわかるように、そのレベルに該当する英検 2 級の単語は NA を除いてほとんどない。

表3 「パス単準1級」「パス単2級」で扱われる重複語について

SVL	準1級・2級	重複語の例
12000	重複語	
Level 1	6 (2.17)	blow, last, leave, practice, present, ship
Level 2	28 (10.14)	bill, edge, fare, account, awful, burst, content, deal, etc.
Level 3	81 (29.35)	access, accompany, additional, admit, adopt, affect, etc.
Level 4	99 (35.87)	absorb, adapt, adjust, advertisement, alter, alternative, etc.
Level 5	31 (11.23)	architect, assignment, barrier, candidate, civilization, etc.
Level 6	13 (4.71)	accuracy, adequate, beneficial, checkup, dizzy, dump, etc.
Level 7	7 (2.54)	altitude, applicant, arctic, donate, handout, leftover, update
Level 8	7 (2.54)	commute, disabled, expire, gender, migrate, scan, workplace
Level 9	3 (1.09)	refund, reminder, vaccine
Level 10	0 (0.00)	
Level 11	0 (0.00)	
Level 12	0 (0.00)	
NA	1 (0.36)	permanently
	276 (100.00)	

注：括弧内の数値は%：語数／総語数

調査結果を考察し、英語教員を目指す学生にどのような意識づけができるのか検討する。「パス単準1級」と「パス単2級」では、綴りが同じでも語義や品詞（形容詞の last と動詞の last など）が同じでないものを一部含むが、276語が重複している。重複して掲載されているので、これらの語は重要単語であると考えられる。英検2級に向けて学習する際には、1300語中の276語は上位級である英検準1級の語彙でもあるので励みになる。英検2級を取得し英検準1級を目指す際には、1600語のうち276語はすでに学習済みの単語であるので、心理的な学習負担の軽減がメリットになると考えられる。表3の完全版を作成し提示することで、学生の語彙学習の意識づけに用いることが可能であると考えられる。

4-3 学校教育で扱われる語彙レベルと英検準1級及び2級の関係について

ここでは、英検準1級及び2級の語彙レベルと小学校・中学校・高等学校の教科書で扱われる語彙のレベルとの関係を検証する。「パス単準1級」「パス単2級」のデータを、NWLCで使用可能なJET2020 (Japanese English Textbooks 2020) を判定基準として解析した。JET2020は、2020年から実施されている指導要領に即した語彙リストであり、どのような語彙が小学校・中学校・高等学校までで扱われるかを確認することができる。水本(2022)では、合計5425語の語彙リストJET2020がどのような手順で作成されたかが以下のように紹介されている。

- (1) 中学校教科書で「小学校で学習したとみなしている」628語を「小学校レベル」とした。

- (2) 中学校教科書 6 社のうち、2 社以上で出現している 1758 語を「中学校レベル」とした。
- (3) 上記 1, 2 に含まれない語で、新 JACET8000 で 3000 語から 5000 語レベルまでの 3039 語を「高校レベル」とした。
- 中学校教科書では、どの学年でその単語が初めて使用されているかという情報があるため、JH1 (中学校 1 年生)、JH2 (中学校 2 年生)、JH3 (中学校 3 年生) という 3 学年の情報レベル分けに含めている。(p. 8)

JET2020 を基準にした、「パス単」の難易度解析結果を表 4 に示す。

表 4 JET2020 を基準にした「パス単」の難易度解析結果

JET2020	パス単準 1 級	パス単 2 級	備考
PropNoun_Num	140 (8.79)	13 (1.01)	
Elementary	11 (0.69)	34 (2.65)	
JH1	24 (1.51)	158 (12.31)	準 1 級: 中学校計 101 語 (6.34)
JH2	58 (3.64)	232 (18.08)	
JH3	19 (1.19)	78 (6.08)	2 級: 中学校計 468 語 (36.47)
SH	1019 (64.01)	728 (56.74)	
NA	321 (20.16)	40 (3.12)	
ALL	1592 (100.00)	1283 (100.00)	

注: 括弧内の数値は%: 語数/総語数

表 4 では、左の縦列は判定基準リスト JET2020 の単語の学習時期を Elementary から JH1, JH2, Jh3, そして SH で表している。PropNoun_Num は固有名詞や数字などの既知語、NA は語彙リストに入っていない学習者には難しすぎる語と考えることができる。

左から 2 番目、3 番目の列は、準 1 級と 2 級の単語帳の中の重複語の数とその割合である。それぞれの項目に該当する数値を総語数で割ったパーセントを括弧内に記している。右の備考欄には、「パス単準 1 級」「パス単 2 級」それぞれの JH1, JH2, JH3 を合計した単語数とその割合を記した。総語数が、「パス単準 1 級」で 1592 語、「パス単 2 級」で 1283 語となっているのは、次の手順の結果である。ハイフンを含む語 (e.g., man-made) や 2 語から成る語 (e.g., carbon dioxide) は 2 語としてカウントされるので分析対象から外した。flemma のカウント方法により、見出し語の語形と見なされる場合は 1 単語とカウントされるので (e.g., challenge, challenging)、見出し語のみを残した。flemma では品詞を区別しないので、品詞違いの場合 (e.g., mean, means) は、リストに存在している品詞であれば残すようにした。

英検準 1 級について、小学校が 34 語 (2.65)、中学校が 101 語 (6.34) (内訳: JH1: 24 語 (1.51), JH2: 58 語 (3.64), JH3: 19 語 (1.19))、高等学校が 1019 語 (64.01) である。高等学校までで 1271 語、割合でいうと 79.84% (PropNoun_Num; 140 語 (8.79) 含む) のカバー率であった。PropNoun_Num は固有名詞や数字などの既知語であるとはいえ、140 語 (8.79) という数字は小さい数字ではない。

英検 2 級について、小学校が 11 語 (0.69)、中学校が 468 語 (36.47) (内訳 : JH1: 158 語 (12.31), JH2: 232 語 (18.08), JH3: 78 語 (6.08))、高等学校が 728 語 (56.74) である。高等学校までで 1243 語、割合でいうと 96.88% (PropNoun_Num; 13 語 (1.01) 含む) のカバー率であった。

この調査結果に考察を加えたい。英検準 1 級については、JET2020 リストを基にした場合、高等学校までで約 80% をカバーしていることになる。残りの約 20% である 321 語を学習すれば、英検準 1 級の語彙レベルに到達できる。英検 2 級については、JET2020 リストでは高等学校までで約 97% のカバー率である。文部科学省や英検によって、高等学校卒業段階で英検 2 級が到達目標の一つの目安とされてきたが、新 JACET8000 の 5000 語レベルが英検 2 級の語彙レベルといえそうである。

英語教員を目指す学生にできる意識づけとしては、JET2020 リストで「パス単準 1 級」「パス単 2 級」の NA に該当する、321 語と 40 語を合わせ、重複する 1 語を除いた 360 語のリストを、本調査の手順を示すとともに提供することが考えられる。SVL12000 を基準にした一部抜粋したものを、表 5 として以下に示す。完全版を作成し提示すれば、英検 2 級レベルの学習を終え、英検準 1 級を目指す学習者にとって有効なリストになる。

表 5 JET2020 で高校生レベルを超えた語彙の難易度別リスト

SVL	JET2020 で NA に該当する	
12000	語数 (割合)	「パス単準 1 級」「パス単 2 級」の単語抜粋
PropNoun _Num	3 (0.83)	abridge, autopsy, genome
Level 1	0 (0.00)	
Level 2	0 (0.00)	
Level 3	5 (1.39)	evil, saving, tailor, temper, ugly
Level 4	27 (7.50)	betray, crawl, deceive, deed, fasten, humble, mercy, etc.
Level 5	36 (10.00)	ascend, brutal, contempt, despise, disguise, dock, dread, etc.
Level 6	46 (12.78)	admirable, ample, bankrupt, beforehand, canyon, etc.
Level 7	66 (18.33)	adore, altitude, amend, apprehension, apprentice, etc.
Level 8	52 (14.44)	aging, ambiguous, analogy, bewilder, biased, etc.
Level 9	46 (12.78)	acoustic, aquatic, crave, cuisine, curb, cynical, etc.
Level 10	29 (8.06)	affiliate, archaeologist, autonomous, complimentary, etc.
Level 11	9 (2.50)	courthouse, deflate, exhale, inhale, puncture, ransom, etc.
Level 12	7 (1.94)	cove, deforestation, dejected, detour, itinerary, lenient, etc.
NA	34 (9.44)	antioxidant, commendable, coworker, decode, etc.
	360 (100.00)	

注：括弧内の数値は%：語数／総語数

4-4 「パス単準 1 級」「パス単 2 級」で扱われる単語の分野傾向について

本節では、英検準 1 級の語彙はどのような分野で用いられているのかを英検 2 級の語彙

と比較検証したい。「パス単準1級」と「パス単2級」のデータをANC単語頻度準拠「英・和・他言語三ヶ国語辞典」のリストと語のマッチングをさせ、カテゴリーに分類が可能な単語のみに割り振られているカテゴリー番号を解析し、それぞれの級の分野の傾向を導き出す。カテゴリー分類が難しい語にはカテゴリー番号は割り当てられていないので、該当しない語が多く存在する。

「パス単準1級」の1600語で、「英・和・他言語三ヶ国語辞典」のリストとマッチングができた語数は1588語、その内466語にカテゴリー表示が確認できた。1122語にはカテゴリーが割り当てられていなかったことになる。

「パス単2級」の1300語で、「英・和・他言語三ヶ国語辞典」のリストとマッチングができた語数は1280語、その内415語にカテゴリー表示が確認できた。865語にはカテゴリーが割り当てられていなかったことになる。

「英・和・他言語三ヶ国語辞典」には72のカテゴリーコードがあるが、本調査では「パス単準1級」か「パス単2級」のいずれかのデータから10以上の単語がエントリーしている22のカテゴリーのみを検証する。参考までに、英検準1級のデータは58カテゴリーに該当し、英検2級のデータは57カテゴリーに該当していた。

表6は、「英・和・他言語三ヶ国語辞典」で「パス単準1級」「パス単2級」のデータから10単語以上が該当するカテゴリー一覧である。表は、ダウンロードした「英・和・他言語三ヶ国語辞典」の「Category List」のシートを基に筆者らが作成した。

左端の列は、「Category List」のコード番号である。日本語と英語のカテゴリー名が示され、パス単準1級とパス単2級の列は該当している語数である。括弧内の数値は、該当する語数が10未満の場合である。

英検準1級の語彙はどのような分野で用いられているのかを、英検2級の語彙と比較調査した結果を考察する。英検準1級の語数が多いカテゴリーは、概して、英検2級の語数も多いといえる。「12 法律 入管」「16 経済 投資 税」「27 文法 品詞」「82 感情 性格」などは、英検準1級だけではなく英検2級の単語も多くエントリーしている。「パス単準1級」のほうが「パス単2級」よりも300語収録単語が多く、カテゴリー表示が確認できた語数も準1級466語と2級415語で準1級のほうが51語多いため、多くのカテゴリーで準1級のほうが語数は多い。しかし、「60 科 電 磁 光 エネ 素材」「63 地球」「79 人体 組織」「95 IT 機器 ソフ 通信」などでは、2級の語数のほうが準1級よりも多いカテゴリーもあり、それらのカテゴリーが必ずしも社会性が低い分野ともいえない。すべてのカテゴリーで準1級、2級ともに該当している語があることや、先述した、準1級のデータは58カテゴリー、2級のデータは57カテゴリーに該当していたことを考えると、英検準1級と英検2級の間で扱えるカテゴリーの差はそれほどないという考え方ができる。

準1級だけが該当しているカテゴリーは7つあった。それらのカテゴリーと語数は、「2 都市 地名 (1語)」「4 米州 (1語)」「29 Acronym 略語 (1語)」「34 他外国語 (1語)」「39 飲食 料理 栄養 (6語)」「74 他動物(節足 軟) (2語)」「75 動物擬音 (2語)」であった。2級だけが該当しているカテゴリーは6つあり、それらのカテゴリーと語数は、「8 神話 (1語)」「11 王・帝政 (2語)」「45 音楽 声 楽器 (4語)」「52 工業 機械 ツール 什器 (8語)」「84 精神疾患 傾向 (1語)」「87 薬 化粧品 化学 (7語)」であった。

表6 「英・和・他言語三ヶ国語辞典」で10単語以上が該当するカテゴリー一覧

コード 番号	カテゴリー名 日本語	カテゴリー名 英語	パス単 準1級	パス単 2級
12	法律 入管	Law/Immigration	28	19
14	不正 不徳(非犯罪)	Violate/Foul/Immoral	10	(7)
16	経済 投資 税	Econo/Ac/Invst/Tax	31	36
18	組織 機関 施設 行政	Facility/Organiz/Admin	14	14
19	主義 思想 闘争	Ideology/Conflict	13	(7)
21	政治 選挙 統治	Politics/Elect/Govern	12	(4)
25	職 地位 雇 労働	Job/Status/Labor	13	24
27	文法 品詞	Grammar/POS	21	26
41	交通 乗物 輸 道	Transp/Vehcl/Vesl/Road	10	18
43	メディア TV 映 エンタ 出版	Media/TV/Mov/Publis/Photo	13	14
49	環境 平和 ボラ活	Environ/Peac/Voluntr	15	10
50	単位 通貨 測 基 程度	Unit/Crncy/Measur/Criteri	12	(9)
54	数学 図 統計	Math/Geometry/Stat	17	(9)
60	科 電 磁 光 エネ 素材	Scien/Ele/Mgn/Enrg/Mtri	(5)	10
63	地球	Earth	(4)	13
78	人機能 知覚 分泌	HumaFunct/Percep/Secreti	11	(8)
79	人体 組織	HumanBody/Orgn	(4)	13
81	性 繁殖 産 育 死	Sex/Reprd/Grow/Death	15	(6)
82	感情 性格	Charactr/Emotion	30	19
87	薬 化粧品 化学	Medcn/Cosmet/Chmstry	10	(7)
91	病名 症 免 衛生	Diseas/Immn/Hygiene	6	(5)
95	IT 機器 ソフ 通信	IT.Hard/Sof/Comun	(4)	12

注：ANC単語頻度準拠「英・和・他言語三ヶ国語辞典」を基に作成
カテゴリー名日本語とカテゴリー名英語は原典表記のまま

英検の審査領域では、準1級は「社会性の高い」、英検2級は「社会性のある」がキーワードである。本研究の調査では、それぞれの級の語彙のカテゴリーには大きな差はないという結果であった。この結果も、英語教員を目指し英語力の向上に努める学生への有益な情報になると考えられる。

5. おわりに

本稿では、まず、2003年の「行動計画」以降の学校英語教育の変遷、中でも文部科学省が示した具体的な到達目標について検証した。その中で、英語教員養成課程に在籍する学生は英語の教授力に加えて、英検準1級程度以上の高い英語力を身に付けなければならないことを確認した。英検準1級に関して、難しさは高い語彙レベルが原因であると考える学

生が多いことや、話題や内容は単語を知っていれば理解できる程度であること、学校教育で学習する文法・構文は英検準 2 級までに概ね扱われていることなどの議論から、高い英語力を身に付けるためには高い語彙レベルがどのようなものであるかを理解すべきだと考えた。本研究は、英語教員に求められる英語力の具体的な目標値の一つである英検準 1 級のレベル、中でも語彙力に焦点を当て、どの程度のレベルでどのような分野の語彙を身に付ければよいかを明らかにすることを目的とした。

研究では、NWLC の SVL12000 や JET2020 を基準リストとして、英検準 1 級レベルの語彙を 2 級レベルの語彙と比較させながら難易度解析を行った。英語教員を目指す学生には、英検 2 級レベルの単語は 5000 語レベルであること、英検準 1 級レベルの語彙は 5000 語レベルを超えた頻出単語 350 語程度を中心に覚えればよいこと、英検準 1 級・2 級レベルの単語帳であっても一定数の重複語はあることなど、研究結果に基づいた知見を与えることができるようになった。学生のレベルに合わせた、様々な語彙リストの提供も可能になったので、教員養成課程に在籍する英語教員を目指す学生に、英語教員に求められる英語力を身に付けるための意識づけとして活用していきたい。

また、ANC 単語頻度準拠「英・和・他言語三ヶ国語辞典」のカテゴリコードを用いて、英検準 1 級の語彙は主にどのような分野で見られるかの調査を行った。経済や法律をはじめ様々な分野に準 1 級レベルの語彙は見られたが、それは 2 級レベルの語彙も同様であり、英検 2 級と比較した際に、英検準 1 級の語彙の分野が大きく異なっているとはいえないという調査結果が得られた。

小学校の英語教科化、学習指導要領の改訂に伴う語彙数の大幅な増加など、小学校・中学校・高等学校の各段階を通じて英語教育が充実し、生徒の英語力は向上していくと考えられている。高等学校の卒業段階で、英検準 1 級レベルの英語力に到達する生徒が増加すると予想できる。英語教員養成課程に在籍する学生には、確かな教授力と高い英語力がますます求められる。本稿では、高い英語力として、具体的な達成目標である英検準 1 級を掲げ、語彙力に焦点を当てて論を進めた。英語教員を目指す学生には、語彙力を増強することで、英検準 1 級などの達成目標に確実に到達し、自身の英語力に自信を持てるようになることを切に願う。

最後に、本論文の限界について記す。本論文では、英語力について、語彙力に焦点を当て英検準 1 級程度の英語の力について論じた。しかしながら、文部科学省が考える英語力とは、「英語を使用する活動を積み重ねながらコミュニケーション能力の育成を図る授業を行うことのできる英語を運用する力」(文部科学省, 2003) であり、その具体的な目標 (値) が英検準 1 級程度であるということにすぎない。英検準 1 級レベルの語彙を身に付けることは、英検準 1 級合格には必要だと考えられるが、英語教員に求められるより良い授業を行うための英語を運用する力は、それほど簡単な議論ではない。今後も、英語教員を目指す学生が直面する様々な課題や問題についての研究を続けたい。

参考文献

- 1) アルク：究極の英単語 SVL Vol. 1 初歩の 3000 語, アルク (2006a)
- 2) アルク：究極の英単語 SVL Vol. 2 中級の 3000 語, アルク (2006b)
- 3) アルク：究極の英単語 SVL Vol. 3 上級の 3000 語, アルク (2006c)

- 4) アルク：究極の英単語 SVL Vol. 4 超上級の 3000 語, アルク (2006d)
- 5) 旺文社：英検準 1 級 での順パス単 [5 訂版], 旺文社 (2021a)
- 6) 旺文社：英検 2 級 での順パス単 [5 訂版], 旺文社 (2021b)
- 7) 大学英語教育学会基本語改訂特別委員会：大学英語教育学会基本語リスト 新 JACET8000, 桐原書店 (2016)
- 8) 竹野純一郎：小・中・高等学校の新学習指導要領で扱われる文構造及び文法事項—英検各級レベルとの比較—, 中国学園紀要, 第 21 号, pp.169-178 (2022)
- 9) 中田達也：英単語学習の科学, 研究社 (2019)
- 10) 中田達也：第 2 章 単語の学習, 中田達也・鈴木祐一 (編), 英語学習の科学, pp.13-29, 研究社 (2022)
- 11) 秦野進一：英語長文読解用素材文の客観的難易度分析の方法について—リーダビリティ指標と語彙レベル分析ツールを用いて—, 全国大学入学選抜研究連絡協議会第 16 回大会研究発表予稿集, pp. 107-112 (2021)
- 12) 水本篤：New Word Level Checker の概要, 外国語教育メディア学会 (LET) 関西支部メソドロジー研究部会報告論集, 12, pp. 1-24 (2022)
- 13) 文部科学省：「英語が使える日本人」の育成のための戦略構想, Retrieved from https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/020/sesaku/020702.htm#plan (2002) (2022 年 10 月 15 日閲覧)
- 14) 文部科学省：「英語が使える日本人」の育成のための行動計画, Retrieved from https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/siryu/04031601/005.pdf (2003) (2022 年 10 月 15 日閲覧)
- 15) 文部科学省：小学校学習指導要領解説 外国語活動編 (平成 20 年 8 月), Retrieved from http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2009/06/16/1234931_012.pdf (2008a) (2022 年 10 月 15 日閲覧)
- 16) 文部科学省：中学校学習指導要領解説 外国語編 (平成 20 年 7 月), Retrieved from http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2011/01/05/1234912_010_1.pdf (2008b) (2022 年 10 月 15 日閲覧)
- 17) 文部科学省：高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編 (平成 21 年 12 月), Retrieved from http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2010/01/29/1282000_9.pdf (2009) (2022 年 10 月 15 日閲覧)
- 18) 文部科学省：国際共通語としての英語力向上のための 5 つの提言と具体的施策, Retrieved from https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2011/07/13/1308401_1.pdf (2011) (2022 年 10 月 15 日閲覧)
- 19) 文部科学省：グローバル化に対応した英語教育改革実施計画, Retrieved from https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/_icsFiles/afieldfile/2014/01/31/1343704_01.pdf (2013) (2022 年 10 月 15 日閲覧)
- 20) 文部科学省：今後の英語教育の改善・充実方策について 報告 ～グローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言～, Retrieved from https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/102/houkoku/1352460.htm (2014) (2022 年 10 月 15 日閲覧)
- 21) 文部科学省：小学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 外国語活動・外国語編 (平成 29 年 7 月), Retrieved from https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_011.pdf (2017a) (2022 年 10 月 15 日閲覧)
- 22) 文部科学省：中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 外国語編 (平成 29 年 7 月), Retrieved from

- https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387018_01_0.pdf (2017b) (2022年10月15日閲覧)
- 23) 文部科学省：高等学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語編 英語編（平成30年7月），Retrieved from https://www.mext.go.jp/content/1407073_09_1_2.pdf (2018) (2022年10月15日閲覧)
- 24) 文部科学省：外国語（英語）コアカリキュラム，Retrieved from https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2019/04/04/1415122_3.pdf (2019) (2022年10月15日閲覧)
- 25) 文部科学省：令和2年度教師の採用等の改善に係る取組事例，retrieved from https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/senkou/1422885_00001.htm (2020) (2022年10月15日閲覧)
- 26) 文部科学省：令和3年度教師の採用等の改善に係る取組事例，retrieved from https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/senkou/1422885_00002.htm (2021) (2022年10月15日閲覧)
- 27) 文部科学省：令和3年度「英語教育実施状況調査」の結果について，retrieved from https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1415043_00001.htm (2022) (2022年10月15日閲覧)
- 28) Hu, M., & Nation, I. S. P.: Unknown vocabulary density and reading comprehension., *Reading in a Foreign Language*, 13, 1, pp. 403-430 (2000)
- 29) Laufer, B.: What percentage of text-lexis is essential for comprehension? In C. Lauren and M. Nordman (Eds.), *Special Language: From Human Thinking to Thinking Machines*, Clevedon, Multilingual Matters, pp. 316-323. (1989)